

令和3年度 ぐんま教育フェスタ 研究成果動画発表についての質問に対する回答

○令和3年度ぐんま教育フェスタにご参加頂き、誠にありがとうございました。長期研修員及び長期社会体験研修員の研究成果発表動画を多くの方々にご覧いただき、幾つかご質問を頂きましたので、大変遅くなりましたが、回答を載せさせていただきます。今後ともご指導よろしくお願ひします。

研修員名	研究領域	質 問	回 答
倉林 正 研修員 伏島 悠平 研修員 寺内 圭 研修員	高校教育の改善	課題と提言の②で述べられていた『教科の特性』を捉える視点が不十分だったとは、具体的にどのようなことでしょうか。また、授業の実践と改善はどのように行っていけば良いのでしょうか。	学習指導要領における各教科の「第1款 目標」の(3)に教科ごとの「学びに向かう力、人間性等に関する目標」が記載されており、その内容が「主体的に学習に取り組む態度」の観点に対応するものとなっています。例えば、高等学校理科であれば、「第1款 目標」(3)には「自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。」と示されています。そのため、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際は、この視点を意識して評価を行う必要があると考えています。本研究では、各教科の「第1款 目標」(3)の視点を踏まえた評価が不十分で、「粘り強さ」や「自己調整力」を意識した評価の傾向が強くなってしまいました。したがって、授業実践を行う際には、各教科の「第1款 目標」(3)をしっかりと確認し、各教科で求められている「学びに向かう力、人間性等」の内容を把握した上で、単元(授業)計画を考えるとよいと思います。また、授業改善に関しては、単元(授業)ごとに「第1款 目標」(3)の内容を具体化させ、生徒にどのような力を身に付けさせたいかという「ねらい」を明確にしておくことが重要と考えています。その上で、授業実践を行い、授業後その「ねらい」に到達できたかを教師自身が振り返ることによって、授業改善につながっていくと考えています。
小林 拓美 研修員	外国語活動・外国語	PCを用いての授業とても参考になりました。タブレットを使って振り返りを行いたいと思っていますが、具体的にどのように実施していたのかお聞きしたいです。(文字入力への個人差の解消、振り返りのつながりを見るための工夫等)	実践では授業終末に「振り返りの時間」を確保し、分かったこと、できるようになったこと、不十分だったこと等を振り返らせ、自分の成長を感じさせたり、次時の目標を考えさせたりしました。次時の導入で不十分だったことを解決する時間を設定し、単元を通して授業内容がスパイラルにつながるようにしました。端末への文字入力個人差は否めません。そのため、紙ベースで作成した振り返りシートを準備し、どちらを使ってもよいこととしました。また、質問の答えを選択肢にし、入力時間差が生じすぎないような工夫もしました。「振り返りの時間」は授業終末に設定するという固定観念がありましたが、言語活動の動画を見返す場面や友達に評価してもらう場面、中間評価を行う場面等も「振り返りの時間」であり、自分のよさや課題を把握したり、自分の成長を感じたりできる時間であると、実践を通して感じました。 端末を活用することで児童一人一人の学習成果を保存できます。そのため、児童は客観的に自分のよさと課題を捉えることができ、指導者もその振り返りを次の指導改善に役立てることが出来ます。また、友達と比較できたり、何度も見返すことができたため、端末の活用により今まで以上に振り返りがしやすくなると感じました。
鳥塚 嘉紀 研修員	国語	研究の概要版を拝見し、「見取り方参考例集」の詳細をぜひ参考にしたいと思いました。ルーブリックを作成するときに何よりもB評価が大切と感じています。今年度、ある一単元で評価基準とルーブリックを作成しましたが、かなり苦労しました。評価基準やルーブリックを作成するためのコツを教えてくださいたいです。	本研究で私が「見取り方参考例集」を作成するに当たって留意したことは、「単元で扱う言語活動を考慮しながら、指導事項を達成した具体的な児童の姿で示す」ということです。「どのような姿が見られたら指導事項を達成しているのか」を考える際には、指導事項を達成するために行う学習活動を入れることで「おおむね満足できる」状況(B)の児童の姿が想定できます。指導事項を基にして、Bを達成した児童生徒の姿が明確に想定できれば、達成に至っていない姿を「努力を要する」状況(C)、質的や量的に上回っている姿を「十分満足できる」状況(A)と設定できます。
高田 康平 研修員	道徳	道徳サポートブックこれから参考になると感じました。1点質問ですが、ユニット道徳を作成する際、価値項目の偏りが起こることがあるかと思いますが、どのように改善したのでしょうか。教えていただければ幸いです。	本来は、指導する内容項目に偏りが起こらないようユニットを導入した年間指導計画を事前に作成してあるとよいのですが、今回は年度の途中から実践したので、事前にユニットを導入した年間指導計画を作成することはできませんでした。しかし、学校の年間指導計画を基に、その中の教材を組み合わせることでユニットを導入しているため、年間を通して見れば指導する内容項目に偏りが起こることはありませんでした。動画では詳しく説明できていませんでしたが、1単位時間単独で指導した方が効果が高い場合もあると思いますので、年間35時間の全てをユニットにする必要はありません。児童生徒の実態や学年の重点内容項目等を踏まえて、重点的に指導したいところでユニットを組めるとよいかと思っています。
小柴 瑛 研修員	社会	自分の考えを自己評価する活動により、生徒が考えを調整し、深めるという実践、大変参考になりました。同じ中学社会科教師として、力を頂きましたありがとうございました。他者との交流をとおして、自分の考えを自己評価する際、小柴先生はICTを活用して主張の表明と共有を生徒にさせておられました。どんなアプリ(ソフト)をどのように使ったのか教えていただければ幸いです。ちなみに聾学校中学部では、主に「ロイロノート」を使っております。聾学校では国立特別支援総合研究所の山本晃先生にご指導いただき、このアプリを導入し、大変役立っております。今回、小柴先生の授業を拝見し、様々な方法を試して生徒の主体的な活動を増やしていきたいと考えております。	ご視聴・ご質問いただきありがとうございました。研究協力校のある藤岡市では、「ミライシード」を使用しています。そのため、今回の授業では、主張の表明と共有に、「ミライシード」のオクリンクという機能を使いました。オクリンクでは、教師が課題や資料を生徒に送ることができるほか、生徒が課題を教師に提出する(送る)こともできます。また、機能として、教師が全員の生徒の作業状況を確認することができるほか、それぞれの生徒の意見を全員で共有することも可能です。入力が不得意で時間がかかる生徒は、手書きしたものを写真に撮って提出する(送る)こともできます。今回は、主張の異なる赤と青のカードをあらかじめ生徒に送っておき、選択した方の主張のカードを教師に提出させ(送らせ)、主張の表明としました。また、選択の理由がワークシートに早く記入できた生徒には、その理由をカードに入力し、提出する(送る)よう指示しました。その後、主張の表明のカードのみ全員で共有し、自分で交流相手を選ばせて交流をさせました。交流後、理由が入力されたカードを共有し、交流で聞き逃してしまったことやもう一度確認したい友達の見聞を見ることで、再考の際の参考にできるようにしました。藤岡市では、授業の中の自己決定の場面や自己有用感を高める工夫を大切にしています。そういう意味でも、発言が不得意な生徒でも簡単に自分の意見を表明・共有でき、自分の考えに名前が載ることから自分の考えに責任を持ったりお互いに考えを認め合ったりすることができる良いツールかと思っています。